



校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠



「おごり・おごられは、なぜ悪い？」の先の話

令和元年5月29日付校長だよりで、「おごり・おごられは、なぜ悪い？」について書かせていただきました。その内容について、改めて一部ご紹介します。

「・・・例えば、お小遣いといえども、保護者は我が子にそれを他人におごるために与えたわけではありません。・・・そんな保護者の思いを裏切り、家庭のルールに反し・・・。おごられた側も、そのようにして提供されたものを堂々と受け取る行為になってしまって・・・。これにおねだりやたかりが加われば、ますます事は重大・・・。」

以上は、事の善悪レベルの話でした。特に中学年くらいまでは、学校・家庭を問わず、「おごり・おごられ」に限らず、事の善悪レベルの話の繰り返しすることで、躰けていく必要があるでしょう。

その一方で、とても厄介なのが、「善悪は分かって、それができない」ことに、どう取り組むのか？という点。これは、年齢を問わず、言ってみれば、人間の弱さの話になるかと思えます。油断すると湧いてくる「醜い欲」「誘惑に負けそうになる心」にどうすれば打ち勝てるのかという話。人に見られていなければ大丈夫だろう。人にばれなければ大丈夫だろう。こういった気持ちになることが、自分自身の中で許せない。そうなる気持ちにブレーキをかけることができる。そんな自分であるためには？また、そんな子供に育てるために必要なことは？

その基盤となるのは、やはり子供をよく観察し、「ありったけの愛情を注ぐ」ことに尽きるような気がします。子育ては誰でも手探りで。しかし、目の前の子供がよりよく育つように、大人自らも襟を正そうと努め、子供をよく観察した上で、自分のことのように導こうとする。そんな日々の積み重ねの中で、子供の心の中に感謝の気持ちが育ち、自分が大切にされているということを実感し、自分の価値を下げたはならない。信頼を裏切ってはならない。といった心が醸成されていくのではないかと思います。善悪が分かり、それが確実に実践できる阿賀っ子の育成に引き続き努めてまいります。



タブレットを活用して学習しています！

一生懸命取り組みました！<全国学カテスト・6年>



落ち着いて行動できました。<避難訓練>